近世時代傳

一

共五本
改 廿七
百八十八号

太政官文庫
和書門
類 七六〇三
號
函 一の一
架 一の
冊 五

149
内閣文庫
和書
類 七六〇三
號
冊 五
函 八
架 九

内 第 書 帝 五 共

内閣文庫
番號 和 7603
冊數 9 ( 1 )
函號 158 149

158-149

国立公文書館
National Archives of Japan

宮内省圖書寮
教部省文庫印
圖書寮文庫

人傳序

鶉居穀食以頤志牆東竈北不與藪澤二其趣而不以高逸自處推拍輓斷與物宛轉肆情坦率不自檢括而非所謂任誕也冥外以護內雖不為同異亦有所不為而非所謂狷介也或寸藝絶人而不求售於世土木形骸樸野如愚或經術吏才取社稷君而行藏不拘以規矩夫謂之獨行

乎。曰非也。称之卓行乎。曰非也。其人固非
四科之属。其行不可以一端指名。不得已
而強題之曰畸人。畸者何。曰畸者奇也。其
間有儒而奇者。有禪而奇者。有武弁而醫
流而詩歌書畫雜伎家而奇者。要皆為一
奇所掩。人不復知本分為何人。故概以畸
人目之云。熊生世純。好奇之士也。迄近世
上遡勝國。得所謂畸人者數十員。狀而



傳之自歎于聞見不廣。詢諸伴蒿蹊氏。蒿
蹊氏曰。余之素志也。余既裒次至若干人。
請合而一之。熊生善畫。乃冥搜貌神。其於
服飾器用。亦皆原其代所尚。而一筆不苟
下。蒿蹊氏以國語為文。宏贍簡遠。妙盡情
態。頗似臨川王。形容晉人。夫其人既以畸
称之。固弗求聞達於當時。豈復屑屑乎自
圖。不朽者耶。大約羊代浸遠。聲迹湮晦者

十七八二子其奚自而得之也蓋就其宦
地鄉閭跡之或話之耳孫遺友或得之
隻事于敗冊蠹簡百方蒐羅鑽燧屢改而
纔就緒且其事必覈實其言必有根至於
好事者自後附益增長者概乎無取焉視
之彼顯人名流之宗系言行粲然可臚列
者則勞逸爲何如也一日蒿蹊氏以首簡
授余謁序余曰此範世矯俗之書也請急



傳之或難曰若人之畸也是惟性分所至
固非學而可企矣詎可以爲範乎曰不然
以余觀之凡此諸人率性而動名求其志
其迹雖或失中行乎至乎其不屑於當世
之名利則一揆耳坡雷霹之琴火成之鐍
自然成趣非待繩削而然也夫絳蕪文綵
豈以黼黻治具者一技一能通乎精激之
蘊者幅巾麈尾鏗鏘儲淡性理而拆天

人之際者曲彔拄杖講経論據巨刹者世固不之其人而大抵與古之聖賢其骨格終不相類者何也唯名之與利為之祟也嗚乎此數者皆人之所甚難能而遺名利之難又有甚焉則名利之累人也豈特焚車攫金之類而已哉莊周有言曰彼其所殉仁義也則俗謂之君子其所殉貨財也則俗謂之小人有味乎其言之也今觀傳



中之人其於古之人也未知如何然已有典刑存焉故其流風餘韻猶足以使夫貪婪躁進之士一披其卷赧然自省懦然易搖矣謂之範世矯俗之書亦不為過也若夫梔其貌蠟其言外遺名利而内以為名利之鉤者乃此書之罪人也寶鑑既懸而妖魅無遁形焉序而勸其傳不亦宜乎

寛政二年歳集庚戌春三月六如散納

慈周叙於峨阜無著菴

觀藝道人永忠原書

目錄

第一卷


中江藤樹　附蕃山氏　貝原益軒

僧　桃水　僧　無能

長山霄子　甲斐霊子

義狹綱子　樵者七兵衛妻　同　久兵衛妻

伊藤仁亭　宮　筠園

駿府義奴　木村利兵衛

河内清七　大和保麻子

近江新六　亀田久兵衛

第二巻


三宅尚齋 附妻女
米屋与右衛門
李升玄溪
小野与兵和妻 附 秀和婦 秀和歌
遊女大橋
石野權兵衛 同市兵衛
賣茶翁
北村鳥所
岡園防寺
僧鐵眼
内藤平左衛門
大石氏僕
尼破鏡 附曲峯
遊女東尼
隱士石邨
江村專齋 附別齋
西生永濟
青木長廣
僧別貢座
中倉忠寛 附山中寺人


第三巻


隱士長流
僧圓空 附僧俊乘
荷田春滿 附姓在滿 門人加茂真淵
僧契沖 附今井似閑 海北若沖 北田忠兵衛
佐田儀兵衛
桃山隱者 附与倉衛之丞
山科農夫 附絆中五郎
手車翁
加鴻宗叔
金蘭齋
長崎餓人
文展狂女
相者龍袋

森金吾
僧佛行坊
僧涌蓮

第四卷

柳澤湛園
成大雅僧
多嶋靖庵
北村拙庵
土肥二三

吉田見良 附僧覓芙
狸二庵
僧日初

池大雅 附妻玉鳳
澤村琴所
苗村丹洲 附妻女
高橋圖南
久隅守景
廣澤長孝

僧仙雲
夫部正子
室町宗甫
近江狂僧

第五卷

僧惠潭
祇園梶子 附百合子
惟然坊
表太

孟河天民 附子牧亭安
戸田旭山
僧文竹
井上通子

北山友松子
隱家義睡
安藤年山 附井爲
宵馬涼及

甲斐德本
僧圓通
山村通庵
松本然堂
白幽子

北村雲山
亀田窮楽
美濃隠僧

宮書陵部文庫

近世畸人伝

○世記はるめ花顔之然めの御ゝ[illegible]て[illegible]
[illegible]れば[illegible]いと[illegible]畸人を
[illegible]ゝ同[illegible]といへ[illegible]ゝめ隠士を集[illegible]
いだれ[illegible]世[illegible]れめ人[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]めを探[illegible]て[illegible]
○[illegible]の人[illegible]を見て曰[illegible]
自[illegible]人乃一[illegible]記は[illegible]
あ[illegible]ゝも[illegible]の人[illegible]畸人[illegible]
[illegible]ゝ人のなそ[illegible]

と、予曰、然り、されどもおのれが孫をるところの主、
ゐうなんへ[illegible]はめしく[illegible]、世[illegible]落くんぼうれを
世中[illegible]人い書[illegible]、大[illegible]乃[illegible]ぐいをゐう
いとゐる一[illegible]の時人[illegible]仁[illegible]を任とせる法[illegible]
乃数[illegible]のことゐ[illegible]世乃人[illegible]生[illegible]べて行[illegible]
[illegible]ことゐ[illegible]ことゐ[illegible]ばも歌の欲とする[illegible]て時は
甲[illegible]とされる倚の[illegible]物[illegible]へ[illegible]
[illegible]いとい[illegible]おのれが沈酒服[illegible]の
乃[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]おのが[illegible]紀人も
[illegible]やと[illegible]人乃[illegible]めの志[illegible]ておくるし、
[illegible]ひ[illegible]石ふ員くの[illegible]の微と負もまた待せげる
西[illegible]入諸日志[illegible]あれど、世中[illegible]を作[illegible]

凡物、味をわきまえて能湯をもわり、ほ行の奇
[illegible]たぐひ[illegible]といふ[illegible]、白内物能湯[illegible]くの
[illegible]といへども[illegible]中[illegible]味あり、[illegible]べきあり[illegible]
[illegible]ゐ[illegible]玉石涙清[illegible]れど作も一奇[illegible]
一奇[illegible]して繩[illegible]と引て[illegible]
凡流[illegible]ふ拍[illegible]て、[illegible]
功利[illegible]基[illegible]世[illegible]て[illegible]
奇話の一笑[illegible]
○[illegible]俗[illegible]仏、乃び詩[illegible]魚の名[illegible]一奇
乃[illegible]ものさハあ[illegible]ば、[illegible]
[illegible]ばハ[illegible]俗[illegible]林[illegible]の[illegible]
へくして[illegible]乃[illegible]ハあ[illegible]一[illegible]猪[illegible]

人と、吾家をとゝまさして、行方なのへられハ
外ゝ世ゝおもと屋くしとあるなどなるかられるく
ともえらべられどあるしハ世話乃ことをなの
めるべきちらハゆくゆくハ人をと世話をとふとく〳〵
強ちのすとゝまるまをさてさてかとよりよく〳〵
西せだハ小屋乃とりてなのるせるあ、
あるハ生るとをさまるとりてこゝもありそこの徳て
世ゝとだ大やうハ強ゝだ只ものれ手ゝよく〳〵
しめる古人やとおしるくるもなるもの
んゝくめりれこゝびの松と近墓をるのこゝやと
りとりこ強めりのなるゝ山せるくるおかゝーなるゝ
あるくるくの、ゝをゝをゝとゝ分るくるくの世を

ゝゝゝのるゝとれくるるなどハ、三強めりの世ゝ
ゝゝれをゝ拾遺のゝるゝるゝざゝあれゝ家、
おるれハ分六ゝゝゝゝるゝ系梅るゝゝれハ再ハの
撰ハ於世ゝるゝゝるゝ、

○高砂生るの人ハ世撰るゝゝゝ人ハ二業
撰とおゝるゝて後ゝをゝべられハゝみ生人ハ奇の
りるべゝゝあるゝ悼て強ゝ佳宮の人乃級よハ、
ゝゝハ大やう家厄のるゝ分て沼ゝ乃人ゝ持られハ
○具佳るゝゝるゝゝ異るあり、世なのゝるゝ、
ゝゝゝ外も一流あるハ、新俗ゝゝゝに従てゝゝゝ
大やうるるゝゝゝゝゝもゝて、沼ゝ事と義ゝ
世乃抽よるゝ、強ゝゝゝるゝゝハゝゝ

○侍の仮、侍の中にも、弓馬をもて業とし、芸能をもて業とするものあるハ、大やう私云、物ゝの名ハ、ものゝ名にしたがひて、おのゝ人の作あるハ、見る人の心ゝ、思ひ合せてわるゝ、ものゝ名ハ、ものゝ名にしたがひて、あるハ、ものゝ名にしたがひて、或ハ、剣法なるゝ、ものゝ名にしたがひて、惟なるゝ、ものゝ名にしたがひて、ものゝ名にしたがひて、ものゝ名にしたがひて

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

祖父の家にあて御とゝ[illegible]
志業如し、故郷に一物れ遊学を志
て備遠つゝ[illegible]深く、一家と喫
十七年のゝき、ホ[illegible]稀儒其て論説と[illegible]れ世の士風
敬と尊ま、又学の業と[illegible]
時先生獨り独学す、論説と面て儒家に出へ
しに及ぶ、時人すべきの[illegible]と憂て、世書大全と購ひ
て熟読す、[illegible]の郡[illegible]
直[illegible]、毎夜深更に[illegible]二十枚とくると業に
[illegible]時ゝ[illegible]て固学年と経[illegible]
[illegible]任ず、[illegible]氏老て故郷に帰り[illegible]
しへ毎日[illegible]ともして[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]と偶[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

為として如氏と親しく後又日々とうて振十枚と
渡くそこなて来る農家より借り、とりこうして
世人より悪徳する如くなりやと、ことをうべて皆さとう
と、三十初て妻子、格式より沢山なるも如家見高
なれい如氏妻ておそれて新とも先生国絹より、此婦
家見魂しいてもて性質悪敵にして所成用ること
如し、つひに婦人奮て、夜半迄はと更よりはつて
先生と先達てつひに、長常小事といへども命とう
されい如こうのうに、先年清兵衛と号して
示す小学のはとうて、故に婦人格式を落さ、
物事りに、辛苦、漸、而して、生涯と称も
先生こうの家渡り、今書とうもうの非とさ



かうて婦人を示て曰、格式と変用するの志ハ名利と
渡るの志と日ひて、ひとつ、ことは、
の体と考ることは、自、此性濃
れ如の氏信して、そ如
解数無記す、又語く曰、平常て田氏小移るふこ
の解とて、ちむ長の解曰、事長小て所長
ひるよりハ、ちむ長小ひて、長ふ所長
ちむ長小ひて、此時、ちむ長の病と先生
す、故り、張て、此解に、婦人曰て、此解長新切
明治、ひとうて、先生、此事、元老
こと、故り事長小て、長ふ長
まて事不長て、婦人曰、和者の

国立公文書館
National Archives of Japan

貴賤に倫しなくてはならぬ、書物を知る人は購ひ
ものなれば、又貴賤の書物を求むるに、書價
貴くて下物なるものは能く買ひ、
書價安き物は賤しく、女識のなき
小婦なりとて、之を捨て顧みず、遠方の著述
ありても業なきものは、世間推しの物知りにて、
各の大野子位なる五尊の人の書を求め、
さうふのたぐひなる文藝業と言へども、
とかくんとなる生ふ人、生んとする志あるとき、人成海
とは向もつかず、終り二三百と、おろか二百金中、食須臾
生ずるとも人あるもとる色金をもて、地獄をもの
とくく久と色て後ふ生ずと、世にを新にを、

為て不德の実と云へる所にて因て名を改め、先生人を教て曰、君子は小みのるを得ざるを恨とす、根本を厚くして枝葉の茂るを待べし、彼つとめずして是を時に遇はざるを恨とす、是を以て学問の道は、必ず自己の身を修し、其方寸の内を慎むべし、小医南山、其方寸の内を慎むべしと書せり、是を以て学問の道は、必ず自己の身を修し

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤樹に[illegible]

[illegible]

[illegible]

業數一変して其性廉潔にして身の及ぶ所
[illegible]近しく言ひ難き事
人なり[illegible]但茶道を思ふの[illegible]
是愛人[illegible]して愛する故に其書
多く年紀に記し通信の[illegible]
及渡す、茶道養生、神[illegible]
別[illegible]あり[illegible]鄙事紀[illegible]
面務にまでも及ぶ、近世[illegible]儒、性[illegible]
[illegible]て、梨栗を貴ぶ[illegible]天測[illegible]
[illegible]大川と称し[illegible]
[illegible]國の名寄とする[illegible]
故調、[illegible]

巡[illegible]と著されし、自の詩文等に及ぶ、
[illegible]族[illegible]の[illegible]
過[illegible]を加へ[illegible]元禄庚辰
[illegible]年一、[illegible]
[illegible]と賜ひ[illegible]正徳甲午
八月[illegible]年[illegible]
[illegible]其[illegible]
[illegible]元禄九年[illegible]
[illegible]年[illegible]十年[illegible]
[illegible]墓誌[illegible]
[illegible]

茶[illegible]道、極精造微、愛物為

[illegible]、[illegible]、[illegible]、

[illegible]の印ばかりに黄の頻蓋の御ぐしに、表衣の新
[illegible]でられしまゝかられの姿古の号と心へつゝ侍ける
[illegible]ばし其新とつゝしてれ[illegible]なる[illegible]
[illegible]ぐしに[illegible]御[illegible]
[illegible]言元稼つゝ[illegible]、[illegible]
[illegible]樹[illegible]の二[illegible]
[illegible]、[illegible]の二和
尚と[illegible]、[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]

つゆくさのまよひあるを、師のかたくなをいかりとし、
くもゐにさそひあるく師、石青、一人
の師の精輝をえて、他方の無量のたとへ、一人も
なしく法をうけ給ふべきなれば、無量の体に
ゆくあるを、もちのたをうあり、やうやくまをふ、ふしぎと
はうつさて、死者の咒をあまたの食と、ことまつ喪
して、ひとりくなんとあるふ、止ことをのまして咒し
たをれとも、奥様の嘆に、師、くにしきこう
地獄界をの嘆ぶりをしれ、ことりうとんとさりて、
沒をはつあるとさてあり河地獄おのち絵、四度
大法飛ふうとして、地獄と蓋りて、羅漢
ひをを、大津の彌平休ふ、ちいさ咒をんとて、ちいさ

それは世俗あるかの物を仮物ふさしめあるを
義うけるかの書業雖しかもいとまなきに、ぢいぐうとて、
漢文ちゃくまとけやしてそこ、世をそ世をてまる
義とは人をいの桃ふ和尚の、彼仏れうふ要とま
ろへかふ武れうくかうさと流は、ふれの師の法貴
かりとくいとかうくおんとまう時、法唯法度を
敵ふとうとまふとうとうとうとうとく、京の作
ほうふふふと作う、僧和うとうとあう、法れしてあう
ふとう武、角食氏ふとふとうとうとうとうとうとう、ふとして
法うて仏義せんといふてふとうとう不意、回、ふとうとの仏義
と法うふとと歌せとふとう、ふふふに物うく角食氏ふ雅
てあざふあくいふ、ふ郎人ふとふふ、日く仏仏の仏や



ふ腐烟ふ、ふふふとふふむふふ、ふふと師ふふふふふ
歌と鑑ふふ賞法ふふ、ふむ和と労ふふ和ふふふ和ふ
ふふふんふふ、師ふふ仏武ふふふふふふふふふふふふふ
ふふ、和ふふふふふふ和ふふふふふふふふふふふふふ
ふんふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふ

せまなれば、宿と称ずべからざるなり。

鹿峯寺は、惠紀山の中腹、

七十餘年、枝葉繁、條梟、骨頭搖ル作ス、所用、

喫、真、帰、霞、作、摩、生、鷹、峯、月、白、風、清、

僧、壺、鉢、

信奥の七鉢和尚、浄土の大法すなはち、ひとり未

法の山に生れ、紀地の行業を

よろこびて、紀地の法に学ぶ。

一、奇行あり。あるとき紀地、まづ義を

行脚のれ、或寺に投宿して、そのあるじなる

ものの、和尚の面貌、醜陋なるを

見て、惡慢の

心を生ず。夜深くなりて、主人の枕元に

和尚をけうとう者なりと、

しるし中央に端坐して、瞑目合掌、ものいはず

背をうち抱くに、牡丹のごとく、

紅蓮の樹と撥すべきなり。

半時ばかりとへども、女自ら

慢心して和尚のつぶ、和尚

没、やうやく寤ぬ。

主人はるかに海を焼、

寺へ帰る。

一日二八のねぶりを

徳、摩、州、

寺の人

寺の人

寺の人

冬に美陵氣あり、ゆゑ嘗て、千年来此伝説を
と伝説をいひて、孫ふ伝を設けて、爲と奏、今
此和尚のこと、ふ〳〵そりなり、是此山河、平四元古刹に
ふ一度眼と寄く者べし、此和尚の実法
出通ぶ、り〳〵和〳〵ずといへども、城よりふと云、后
をあうこひいあるゆゑ編せは、まさに海氏行くうせん
と、家人激発して云
又家人云く、王湯明いまを鶏冠の日、爲年ちん
きちん京師小村山の年、牧者きく〳〵年、牧者
絶矣此数年ゆ寡如あり、我出へく湯の外
庶よりもりに、松いひやゆ、鶏冠中の書と、あり
人撰ましに、遠よ行くと、此がさよりの行と

おべ、ふとてふふ、湯の外ふ九相国の之と法、
世界とたきし事とべ、世界滅とるべし、教滅
ふり探と破〳〵ぎりしまとのべ、花代謝てあて
ゆといふもあるとさん、ふの〳〵ふ、こ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ずと
八郎〳〵〳〵〳〵、橋呼、貴人ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵一ふと
法ふ、白めとゆ〳〵べ、山塔よ和さしぶふ〳〵ずや、
長山雪ふ此法ふ為ふ法ふ中国ふ
青ふ八水戸府城長山七年来ふ和て、業ふ職所長寄
法法ふ寄ふ、文畑ふめふ、ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵
寄ふ、すべふゆと法ふの帰法ふふふ牛ふ、長畑法
八法解の表ふふと、やふ〳〵みふ〳〵のふ、長牛
とふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵、清村のふふ法ふの、個表法長寄

ふこと、我生れ合せぬるとくるしい、毎夜のうゝきに涙こぼし
ながく、綱常もまるで春の夢のやうな彼家焜
つうめることいふこと、十四又宗まで立て行り、毛利
家の時、藩と憂きうしに、雪は医業と嘗試あまり、
人目とはづして、藩の秘伝、神妙の新薬大士へ素
晴らしく系治の効力、患者のことわりもむかして、
その病症そう、其世界中の貴女徒婦へいまらるり
治療に、第一高坪とこゝろして、徳治よりの秘伝、高坪と
又いとゝおりの小義尊く、徳治はいとまして女職
とまうせり、古人曰、凡婦人の学ましつよ如と長とす、
り婦学は有拙れへしとそ、学問寿まる、如為まれを
学の義女の学まうり、又徳治久しく召使ふ



ふ内、おちあるく事よりふつかまくいとまもな
くとせずが、家内綱治術の秘伝をこの国ふ志ひ
つをとゝりて、もとゝ学ぶ、ひとりこんうのみ時はなりてくく
切なるは、学術しく度はけりまして、秘伝、侍の、伝来
ならるべきものあり、徳治ゆりたるふ、ゆえ志のく
越治術と伝ふるこゝ、女の素質ふるこゝ、かくしてもあ
ばれて、素面くなへくこゝ、この転ものこゝ、新しく
うまくの人と輝もこゝうまに、此事の潔ふるうち
り、綱治もとらるこゝまま、武のうちに、さわやかなる
まいはまたたすけ行こゝ、ものこの婦治と物りて、
りわこつの書まれ、笑女学女弟女頼女学ふ、ふくくこゝ
したうまいやまうてこゝ物ふこゝ行こゝ、西治こゝまれまう

病つよくて、ほく七月廿日ふかまるに、新四十二、深沢弼さ
大きるといふはしゆ、ゆて、妙珠院日澄日ひく、後ろ、
ままに拾くまるしつよ貞賀の婦人なる事や、

甲斐栗子

栗子は甲斐郡の農夫栗う勇なり、男
性う孝ありてその名高し、終に男性さ亡ク後
山掘といふにあり、めめけ（梅の）いつるあさ大変ひて、あふ
瀧さ流れ、その村民と協力して、ふしハ十二年養ると雖も貧
八つふまりの家つよのまとりて、印ようさとよう
背よハ貧つあふ、ちーるとあるいは、山はよひく者ん
うるとは、苦よとおくするは貧とかるへし、女ういん
日鄙の者う、行のまるあるあ事ふ江、夫性の美う

くのごとふいせはちうくとたまちうまれ、さうふ相ひさうふ
笑ひ、かくし、死とうくせちうと学し、さういあれたいかるよ
りくさ所ましくあくつといくへおうふ、ふ人くれうさらふ
碑と建て幸賓と絶きりとしまん、今は節婦之碑と書てたうる石碑なり

義孝個子

[illegible]の[illegible]小須の村に小、物根あれるとうとに系士の
ちうふ続うく小女、十四人果ふく個といつうふれ幼四人
と背よ原くくそのうとうふ妙ん[illegible]妙根ちうふ主来
てとへつおくと、絶き急ー已う根とまうく皆のう成
物ちいうふうよりうふ妙根い強女う尾へ答は四、ふうる
小人くゆつあて来ふしふい根ふ[illegible]ふ[illegible]彼女を
物ようゆうまうまていい高祖ふ[illegible]ふ[illegible]るの故うおうと

義ふうふうまふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]

是枝をもさせずして人のかたちをば、
大方蝋燭とぞしられて、後ろ指をぞ
あてける。さて文政年中、ある人、やうやう彼荷を
ぬぎ、ものいとなんとて、そこを去たり、去
るとの噂、いろいろ後まぐれの如くふ、まはさて
後年ふるくなりぬ地へ帰りしかば、ふる
初めのごとく家業を勤、数十日保養とかへて常の後
しるしなく、医師、そもそもうるはしく業病
七年傷の如くなりとて、夫人、ひとり働て留地
をぞうりける。さて、今年、元四年、六十餘
の春をもって、年々、春ごとの花、雪を智漢元帝
の嫁、蝶蝶の如くふ、



○享保二年、代代十一郡、波の舟井、縣
郡、猪傷、とぶらひ、ものくるしく、
ものいはぬ、ものとして、南廣瀬村
人田、ものとして、ものいはぬ、ものとして、
村、ものとして、ものいはぬ、ものとして、
享保、ものとして、年、四、月、ものとして、
ものとして、ものとして、ものとして、
ものとして、ものとして、ものとして、
ものとして、ものとして、ものとして、
ものとして、ものとして、ものとして、
ものとして、ものとして、ものとして、
ものとして、ものとして、ものとして、
ものとして、ものとして、ものとして、
ものとして、ものとして、ものとして、

抱くむ、牧場とひるるふ、新家と故てはなしふ、
して村民郎人れ続くもの、程四もまて判ぎまて一人もて、
斧ともてこを抑えとう、流すもてあまて集う、そを抑えうこ
ふて踏ふ、無者八郎ふ、流ることと仏、其時流を、飛び殺
そう、そを新、毒の仏地ふ、しかるの勇の契と度ふ
て勢と場ひと、赤源先生の第九ふ。

伊藤小亭

小亭伊藤氏、洋長衛、字西郊、号通称仁林
之丞ふ筆ふ、ふ質、筆馬家ふ、ふ家小亭
友ふ、ふ、氏雷と懐ふ、故ふ生活集く
薩侯の半ふ、ふ、氏雷ふ、ふ和ふ、ふ和家城
川ふ走ふ、夏ふ考ふ、ふ作ふ、ふ、ふ

小行ゑ[illegible]ま[illegible]行ゑのゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

宮為圖

為圖文氏、津斉、字子孝、胡小通称、尾張国河西郡[illegible]地村の人、生来温厚謙遜にして、聰慧絶倫、十歳既に[illegible]を吾業と為すに及び、十三歳の時始めて皆ふ

[illegible]

[illegible]、為圖既に病沈重、母氏歎ふ堪ざるとして、[illegible]して、[illegible]身體羸虚、[illegible]ばらく沈疾に免せられんことを願ひ、[illegible]つ[illegible]ふつ[illegible]死と喪[illegible]る者の如くなるも、[illegible]ふ[illegible]、年十八[illegible]ふ[illegible]、[illegible]ふ[illegible]先生ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]

向東陳拙之民謙宇ゝ升右傷也佇中
庭幽苦怪窃ゝ歟
回風一陣沙ゝ蒙戰生卒蒙ゝ
空氏義家戰生卒蒙ゝ夫物稱ゝ
吾者ゝ引筆一捕題風外　宣亨

故右衛門督殿、物氏にまさるとあらく情なく物まして日、母さまは
いまはにまさるさん、きてて夫の面と那ばいあるべからぬ、一
東夷、さてはは那よりまとりとんば、一さびとらしてと宸
ば、他人への義成有て、物氏はれやうかなるべし、まも不
吹さびむうまびせまんくまを書面を以て高師小路
と数十年といへども、伝字小清水、学ぶ所は、一日東西
寸法でかつて、西ふかひ、二東加茂川の東方鴨川の長
さとを、諸作とあめまてうれを避ふ、ぬぐ人へ行くと
新すれば、出を始めて人は行く、行くものに宴会人の間と
し、ちあり、めくることんて、彼者新は作、軍とうさんとあるべ
べうしば、人名ひて、行ってるもと天文、陳遍の頃、三十歳
信の和尚の法の弟とちらまも、文雄氣者の列不

つまりくるしば、和尚雄まれば名者、はまれよりう
者ありまり、元と世の法儒、清人自見ればとあん小表表
し、きたの寄とこのまんまと法むは、はを弟弟
ばりといへべし、ち紙ぐ郷学不ありるは、ぬぐ
支人と学ばて、紙おりて懸ふ紙ぬり、行ふとき
天十八、寺山、永親者の墓碑を撰る、門人和尚の茶
ひ、所著、他者、法、法文集、数巻、皆いまぐ稿と
脱せんして質と為、ちとむ自、

後府義政

後府義政名は名義政、いろの嫡八女十一男なり、はられ
はなり、はしば、十六小なり、裏めれば、奴婢皆鎧と
ちは、八女の年ちば幼しいまぐ、貴国と人を使て他へひべ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

江戸小日向と業とする刑部なるものあり、けだし
はり木揚といへる市場なり、初年のころ、けつくしこの
家裏にて、九角牛の志願、牧むとすべきものとす
けだし、小日向の作なるゆえ、黄ばみたる珠をんと
うばひて、のちまで指ふ有るべく、ひろめ、作ひ、その
業とする作は、牧成者にすぎざるものとひ
のくるにて、なほ、そのかまとばかりなるべし、けい
ちとそこにけるべし、されば宮ふきこえく大に喜し
ものへ、揚まを有り、京保年ころ、やはらかに称
へるとばかりそこ、そのかまの牧成者なるに、事はもあく
そして、木揚利義に義格者作なるべく喜しが
りうとそこの時とし人なりし、

河内清七

河内のふりはの里ふ、拙と業とする長者清七、
つるれあり、妻を貴人の家の乳母なりしが、美し
き性なるに、拙のふ、俗ふりはあさいに、
あるべきはる者ありて、ものさまの人なりとく思ひ入、
はりの業とそこそ、そこ一人ふれ者をまるひよ元一
人ふとて、妻のぬりう合とこのびまくして
やうやう、武日妻の弱のあるべりとのでたりに、その日
ろ業たしがのう物くに乾て、ふりはくことをとて母
そこふりう物、忘りあるべ、まもしば、きびとそ試
ふ、土ふしまぐうちろ、行ぐとりぐそろふ、弱二ね

あらそはれしが、ちからなくして、ものもいはずして、
けるがごとくなる里ばの家農りの氏伊勢人の法めとん

大和伊麻多

大和の忠兵衛、郡山内村より、伊麻多いく、
年一ヶ年ばかりあまりてうせ、又は、ながらへ、
文化十一年辛亥ばかり、老母、病をもてりとして、伊麻多を
物もいはれず、伊麻多、ものいふ、十言すること、
つもりあり、世のいつの、銭、無ければ、せをなんとさし
とて、山里山中にて、貧なるよりなすべきいとまなし、
まで、ものいふ、ものいふ、言あり、伊麻多
めでたく、銭のいふ、言あり、伊麻多
まもなく、銭、無ければ、世をなんとさし
とて、伊麻多、銭、無ければ、世をなんとさし

此時書ふ後りし者、芭蕉、名桃青、貞享元年四月ふ大
ふ沼と行脚つつらぐに出て、派とどのがとうしやぐて
京よ出りて、書ふ出ふ中ふ中ふ出ふ、中ふ沼ふ、中ふ中ふ
出りふ、こうふ大ふ沼よ出て、その帰ふ出ふ、こうと、こう
人皮中ふ出ふ、こうふ、こうと、こう
こう高倉の宮ふ自ふ出ふ、中ふ中ふ
芭蕉中ふ中ふ、八月ふ出ふ、
ぶふ、ふ出ふ地ふ日ふ、見国のたうふ旅ふ
脇の表ふ紙、血ふ、書ふ中ふ、
ふ出ふ中ふ出ふ、中ふ中ふ
ふ出ふ中ふ出ふ、中ふ中ふ

近江新古



ふ出ふ、こうふ九月ふ出ふ、こう
ふ出ふ、こうふ、こう
ふ出ふ、こうふ、こう
ふ出ふ、こうふ、こう
ふ出ふ、こうふ、こう
ふ出ふ、こうふ、こう
ふ出ふ、こうふ、こう
ふ出ふ、こうふ、こう
ふ出ふ、こうふ、こう
ふ出ふ、こうふ、こう
ふ出ふ、こうふ、こう
ふ出ふ、こうふ、こう

年頃よりのぢく、妹とも、ひとつのまに結ぶ、湯
を伝ひ、はれ物、抱きかくく、行きむ、行とと
いへども、帯をとりて、ものしどもの、
おもかくうつるんぞ、ただ、唯そ者い
ひとこいわさ、そうるに仕しりのし
けかをして、年はもやはり子をしと、若日人をは
くふ、ものをもくとみる、若ろう、
患ひを者よりけるのとも、おもひとれ行う、
ぞしい彼若より、年も端年とあるてしろうし
とのべうさかとでうろひやとうるやふ、
うやまし、親よはうへくはゆとあるんとも
まあるはまれいとうろ物ゆすとをつあてやは、

亀田久主清

亀田久主清、書家彫楽ゥ業ゥ為ルヲ以テ窮乏ヲ
支ヘ居タリ、一日寡婦ヲ訪フ、十余貫ノ所無シトテ
物語リ一人ノ子ヲ養ヒ過テ傘ヲ作ルヲ
ヒマトシテ、ヒトリ子ヲ養ヒ、ヒトリ新シ、ヒトリ利ヲ
ヒマトシテ、ヒトリ子ヲ養ヒ、ヒトリ新シ、ヒトリ若

依ゐ[illegible]ものゝ[illegible]ゆゑ[illegible]
いるゆゑ[illegible]
[illegible]
[illegible]

、
実よりのちとも、そなたさまにあるべきかとは
しいとぞれがいつぶ、此後ハ用ひ給はれ、うまるる
たびごとにすぐる歳月よ、遠ざかるべき当七
をうまれはりて、ひろうる歳の、なとこばちて、
ひたすらなるとおもひ、しかし病床下血と、ひとく、外ハ
とはいとも、はるかとと、見れば、ひ、歳ハ、歳ハ、
つくはりすぎとこの、思ひまとなしへ、つかる
清ハ、やとく、久しきそとうるとれい新うるは
小すとこ、ひとまと用ひ、ひといこ、ひつくらにけ、ひ
と、ひとりへ、ふとしう、歳ハ、ひとはそとの、ひとう
ひけれ、ひとりへ、ひとりへ、ひとりへ、ひとりへ、
遠ひとうひ、ひとうひ、ひとうひ、ひとうひ、ひとうひ、



しとうて、そとうて、そとうて、ひとうて、ひとうて、
つくの信、つくく、病楽も新ひとうひ、歳楽
いとく、ひとう、時、ひとう、歳ひとう、ひとう、
うば、たちに、ひとう、ひとう、ひとう、ひとう、
書ひとう、ひとう、ひとう、ひとう、ひとう、ひとう、
りて、傷とひとう、ひとう、ひとう、ひとう、ひとう、
ひとう、ひとう、ひとう、ひとう、ひとう、ひとう、
う、見地ひとう、ひとう、ひとう、ひとう、ひとう、
ひとう、ひとう、ひとう、ひとう、ひとう、ひとう、
此此、歳ひとう、ひとう、ひとう、ひとう、ひとう、
歳ひとう、ひとう、ひとう、ひとう、ひとう、ひとう、
ひとう、ひとう、ひとう、ひとう、ひとう、ひとう、

元を東民間ハ出来のハ良多ハ、仏教の
行はるゝべし、ハれば人生まゝ〳〵とゝ
ゝびて筆地ハ、〳〵木ハ多ゞ也ハ、〳〵無くハ
ゝい、ちはゞりしらは、〳〵生なの人とは、花顔
ゝ〳〵ハ、

内閣文庫
昌平坂学問所

国立公文書館
National Archives of Japan